

Barrio de Tango

(2017年8月13日 @雑司ヶ谷「エル・チョクロ」)

齋藤 富士郎

「Barrio de Tango」とは始めて聞くグループ名なのでどういう演奏をするのか興味をもって聴きに行った。メンバーは右に示すように

江藤有希(Vn)

鈴木崇朗(Bn)

三枝伸太郎(Pf)、

西嶋 徹(Cb)

の4人からなるクアルテットである。

江藤有希の説明によると、彼女の同級生が中学校の音楽教師で、生徒たちにタンゴを聴かせたいという彼女からの依頼を受けてこのコンフントを急遽結成し、それを実現したという。その結果がどうであったかは話がなかったが、その点でこのコンフントは特定のアーティストが「こういうタンゴをやってみよう」と考えて編成したものとは少し経緯が異なっており、彼らがどういうタンゴを創造して行くかはこれからであると見た方が良さそうである。そうした事情は当日のプログラム（ボックス内に表示）にも表れている。

見ての通り古典曲は1曲もない。そして目立つのはメンバーの自作曲が7曲も入っていることである。自作曲についてはメンバーのそれぞれが曲名を紹介したが、問題は声が小さく、発音が不明瞭で、曲名を良く聞き取れなかったことである。プログラム中に「？」が附してあるのはそのためである。自作曲を紹介する時は曲名がはっきり聞き取れるように話してほしい。このプログラム内容から見るとこのコンフントはどちらかと言えばモダン派指向で、タンゴ一本ではなく、フォルクローレ、ブラジル音楽など他のジャンルの音楽、それに自作曲も取り入れて行こうという姿勢が読み取れる。それだけに今後の舵取りは難しそうである。

メンバーはいずれも練達のアーティストばかりである。

バイオリンの江藤有希はオルケスタ・ティピカ・パンパ



Barrio de Tango

パリオ・デ・タンゴ

港町ブエノスアイレスで生まれたタンゴ、その周辺 (Barrio/パリオ) に広がる、豊穣な香りで我々を魅了する音楽の海。タンゴをこよなく愛し、その魂を追い求めてきた熟達のタンゲロが集まり、夢の四重奏を漕ぐ

江藤有希 × 鈴木崇朗 × 三枝伸太郎 × 西嶋 徹

violin bandoneon piano contrabass

2017 8・13 日

16:00 open
17:00 start

charge:
¥ 4,000 / 予約
¥ 4,300 / 当日

第1部

Romance de Barrio

A Evaristo Carriego

La Trampera

瞳の中の海 (?) (三枝伸太郎 作)

Tango de ... (?) (江藤有希 作)

バイル (?) (西嶋 徹 作)

Domingo Melancólico (鈴木崇朗 作)

第2部

Alfonsina y El Mar

ビー・フォー・ブラジル (?) (三枝伸太郎 作)

? (江藤有希 作)

Invierno porteño

Nocturna

時のみぎわ (?) (西嶋 徹 作)

A Orlando Goñi

アンコール

El Día Que Me Quieras

の主要メンバーであると共に多方面で活躍している。その音色は最近ありがちなやたらにキーキーと響かせるのではなく、中音域を中心にしっかりと聴かせるもので正にタンゴ向きと言って良いだろう。

バンドネオンの鈴木崇朗はオルケスタ・ティピカ・パンパ、オルケスタ・オルテンシア、ロス・アミーゴス、古橋ユキ・トリオなど多くのオルケスタやコンフントでの大活躍に加えて、最近では編曲も手掛けている。タイプとしては、どちらかと言えば、オーソドックスなタンゴ向きのように思えたが実際はどうであろうか。

ピアノの三枝伸太郎については、残念ながらこれまでその演奏に接したことはなかった。しかし今回の演奏を聴いた限りでは、彼のどちらかと言えばジャズっぽい、同時に力強いタッチがコンフント全体をリードしているように聴こえた。

コントラバスの西嶋 徹についても、同様に残念ながらこれまでその演奏に接したことはなかったが、今回の演奏を聴いた限りではやはりモダン派指向のように思えた。

オルケスタやコンフントが良い演奏をするにはやはりメンバーを固定して活動を継続することが第1である。そうは言っても経営的事情がそれを許さないということはあるだろうが、少なくとも一過性に終わらせないための努力を続けることを期待する。

日本のタンゴ愛好家たちは皆、高齢化している。筆者も含めて、それらの人たちは数年～十数年後には世を去っているだろう。それと共に日本のタンゴ文化が消滅してしまうのは何としても避けたい。そのためには若年層の開拓が不可避である。その意味でこのコンフントが中学生にタンゴを聴かせたということは大変良いことと思う。そのような活動は今後も続けて欲しい。因みに、京都地区ではアルトロリコが同様な活動をしていると聞いている。東西のタンゴ楽団が連携して若年層の開拓に向かえばなお結構である。

